

学校だより

2月号

<http://www.ed2.city.yamato.kanagawa.jp/s-chu/>

「子どもたちを支える力」

教頭 中山 佳予子



新年を迎え1ヶ月が経ちました。この短い間にオミクロン株による新型コロナウイルス感染があつという間に拡大し、それに伴う「まん延防止等重点措置」が全国34都道府県に適用される事態となっています。毎日のように「新規感染者が過去最高を更新した。」というニュースを聞くと、不安な気持ちになります。今回の第6波は、子どもたちへの感染が多く発生していることから、学校でもマスクの正しい着用やパーテーションを活用した授業形態、常時換気など基本的な感染対策を今まで以上に意識しながら教育活動を行っています。

中央林間小学校では、コロナが落ち着いていた昨年10月から11月にかけて、新型コロナウイルス感染拡大に伴う、いじめ未然防止に向けた道徳科の授業を行いました。低学年の教材内容は、コロナに感染した「ぼく」が、元気になって久しぶりに学校へ登校したときの不安でいっぱいな気持ちと、いつものように「また遊べるね。」と優しく声をかけてきた友だちとのやり取りが描かれているものでした。授業では、「ぼく」が学校に行けることになった時の複雑な気持ちと、優しい言葉をかけられた時の嬉しくて涙が出そうだった気持ちを捉えながら、「自分ならどうするだろう?」ということを考えていきました。授業後の子どもたちの感想には「相手の気持ちを考えられるようになりたいな。」(1年生)、「もし自分がコロナにかかったら、次に学校に行く時、何か言われなかつても心配になる。「ぼく」の気持ちはよくわかる。」(2年生)、「声をかけてくれる優しい友だちがいて安心した。これが本当の友だちなのだと思った。こんなクラスだといいな。」(3年生)とありました。

学校は、学習だけでなく集団を通して他者とどのように関わっていくかを学ぶための場所です。どんなことが人を傷つけ、偏見やいじめにつながっていくのか、また、どんな行動や言葉、気持ちが人を助け安心を与えることができるのか。子どもたちの成長に合わせて繰り返し、いろいろな機会を捉えて伝えていきます。いつかその経験が、子どもたちを支える力になると信じて。

2月3日の節分では、邪気(コロナウイルス)を払い、無病息災を願うとともに、心の中の鬼(偏見やいじめ)も一緒に成敗したいものです。

